

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

おん ね ない

月刊 温根内 通信

2023年1月号 No.316

1月15日(日)発行



卯年ですが・・・？

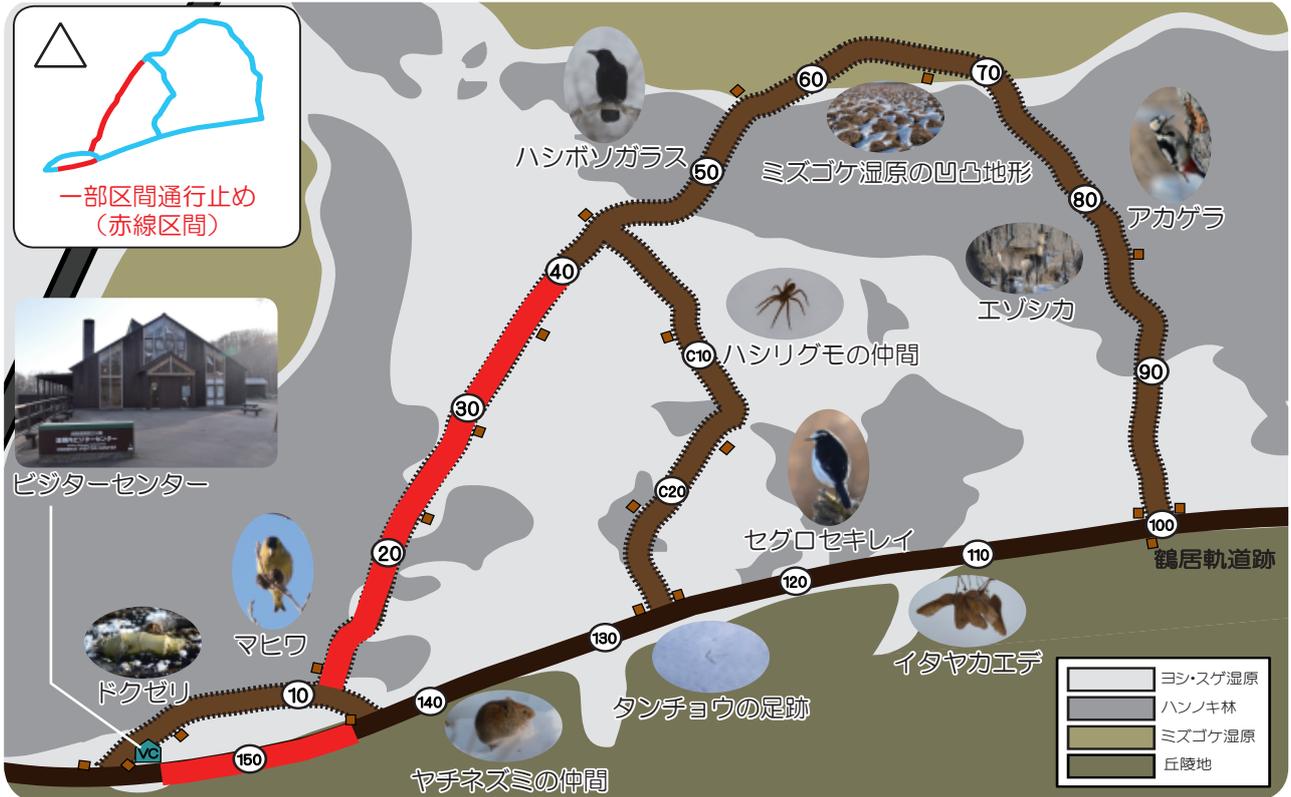
明けましておめでとうございます。

今年は卯年ですね。そこでエゾユキウサギの足跡を
でもないかと、さっそく探しに行ってみました。

すると、雪原を高速で移動する妙な物体が！しかし、
やけに小さい…。

正体はヤチネズミ。警戒しながら穴から出たり入ったり、
人間よりも忙しい新年のご様子でした。ウサギでは
ありませんでしたが、貴重な出会いに恵まれました。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（12/15～1/14）☆☆☆



【ミズゴケ湿原の凹凸地形】
雪が積もると、「ブルテ」「シュレンケ」とも呼ばれる特有の凹凸地形が際立ちます。今は写真のような、まだら模様が楽しめます。



【ドクゼリ（根茎）】
セリ科 毒芹
凍ったヤチマナコの水面に顔を出していました。ワサビに似ているので、誤食には注意しましょう。



【タンチョウの足跡】
ツル科 丹頂
湧き水で水生昆虫などを採餌している個体のようなようです。複数羽と見られる足跡がっていました。



【イタヤカエデ（実）】
ムクロジ科 板屋楓
実が大豊作だった本種。徐々に地面に落ちていきましたが、枝先にはまだまだ残っています。



【ハシリグモの仲間】
キシダグモ科
雪上を歩いていました。夏にもよく見かける大型のクモで、冬もこうして餌を探しているようです。

もうすぐ聞こえるかも！



【ハシボソガラの囀り】 気温が上がると、留鳥の囀りが聞けるかも。

○表紙の写真 上：ヤチネズミの仲間 下：ヤチネズミの糞

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（12/15～1/14） ☆☆☆

厳しい冬がやってきました。静まり返った中でも、鳥たちは懸命に餌を探して生き延びようとしています。特に、鶴居軌道跡の林ではマヒワやカラ類の混群が、湧き水周辺ではセグロセキレイやミソサザイなどが確認できています。



【ホオジロ】 夏鳥
ホオジロ科 ホオジロ
温根内での確認は2度目。ヨシの穂をついばんでいて、しばらく職員も楽しませてもらいました。



【セグロセキレイ】 夏鳥（一部越冬）セキレイ科 背黒鶺鴒
冬になると現れ、凍らない湧き水で餌を取っています。今年は2羽確認できました。日本固有種。



【マヒワ】 漂鳥
アトリ科 真鶺鴒
群れでハンノキ類の実を好んで食べています。写真はオスで、全体の黄色みが強いのが特徴です。

○温根内木道周辺で観察された鳥（12/15～1/14）

鳥（和名は日本鳥類目録第7版の順）	7	コゲラ	14	ヒガラ	21	ツグミ	
1	コガモ	8	オオアカゲラ	15	シジュウカラ	22	セグロセキレイ
2	タンチョウ	9	アカゲラ	16	ヒヨドリ	23	マヒワ
3	トビ	10	カケス	17	エナガ	24	シメ
4	オジロワシ	11	ハシボソガラス	18	ゴジュウカラ	25	ホオジロ
5	オオワシ	12	ハシブトガラス	19	キバシリ		
6	ノスリ	13	ハシブトガラ	20	ミソサザイ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いいたします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようにご理解とご協力をお願いいたします。

☆☆☆ 温根内の昔と今 ①「温根内アーカイブ計画」進行中！ ☆☆☆

温根内ビジターセンターが開館したのは1992年。30年前のことです。開館した翌1993年には、釧路市でラムサール条約締結国会議が開かれるなど、当センター開館前後（1980～90年代）の釧路湿原はとても盛り上がりつつあったことが窺えます。

西暦	釧路湿原に関するおもな出来事
1980年	釧路湿原が国内初のラムサール条約登録湿地に指定される
1987年	釧路湿原が全国28番目の国立公園に指定される
1989年	「釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会」設立
1992年	鶴居村温根内地区に「温根内ビジターセンター」開館
1993年	釧路市で第5回ラムサール条約締結国会議が開催される
1997年	標茶町塘路地区に「塘路湖エコミュージアムセンター」開館

当時の状況や、30年以上前から現在に至る釧路湿原の移り変わりというものは、我々職員自身、とても興味を惹かれるものがあります。そんなある日、当時ボランティアのメンバーでもあった方が保管していた、温根内周辺を記録した大量の写真がこのたび見つかったのです。その枚数、何と3600枚（！）。写真はすべてポジフィルムとして残っていました。そこで、これらを1枚1枚デジタルカメラで撮り直し、パソコンでも見られるようにデータとして整理していきました。まだすべての写真を

確認し切れていませんが、興味深いものが見つかってきています。



初代ビジターセンター
（1995年 佐藤光則氏撮影）

観察会の様子
（1994年 佐藤光則氏撮影）

過去の写真を見ていて、一番にハッとさせられるのは、やはり温根内木道周辺の植生の変化です。今回、1992年8月に撮られた木道の25番周辺（ビジターセンターから約500m地点）の写真が見つかったので、次のページにほぼ同じ時期、同じ地点から撮った現在の写真と並べて比較してみました。こうして見ると、**90年代当時は、湿原の草花がとても華やかですね！**ドクゼリやサワギキョウといった花が、これでもかというくらいに咲き誇っています。それに比べると現在は、ツルスゲやヨシが一面を覆ってしまい、目立つ花は見られなくなってい

るのがわかります。また、木道の形や幅も、昔は随分違っ
 ているところなども面白いですね。
 また、どこを（誰を）写したのものかよくわからない写

真も多くありました。当時を知る人たちに見てもらうな
 ど検証を進めていき、新しい発見があれば順次紹介して
 いきたいと思います。（温根内 VC 指導員 藤原伸也）

～写真で見る温根内の昔と今～
 25 番付近（1992 年の写真はいずれも佐藤光則氏撮影）

昔



1992 年 8 月 23 日撮影

今



2021 年 8 月 22 日撮影



1992 年 8 月 23 日撮影



2020 年 8 月 8 日撮影

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎ 0154-65-2323



♪ 湿原の裏山でスノーシューハイク

〔日時〕 2 月 5 日（日） 10：00～12：00 〔定員〕 10 名（小学生は保護者同伴）
 〔参加費〕 無料 〔場所〕 温根内ビジターセンター
 残雪の裏山をスノーシューで歩き、雪解けを待つ植物などを観察します。

○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪ 釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕 2 月 4 日（土） 10：00～12：00 〔定員〕 10 名（小学生は保護者同伴）
 〔参加費〕 無料 〔集合場所〕 シラルト口自然情報館駐車場

～木道工事、着々と～

木道の工事は現在も続いています。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、春の開通に向けて進めておりますので、もうしばらくお待ちください。



月刊 温根内通信 No. 316

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
 〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内
 Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185
 E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook： [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）
 休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館） 入館無料